

2022 年度第 7 回価格審査会の開催について

2022 年度第 7 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 10 月 14 日(金)
場 所	6 階大会議室
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：今井 豊 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 6 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 7 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」11月号、「Web 建設物価」11月号
・ 価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 セメント（青森市ほか 57 都市）、レディーミクストコンクリート（留萌市ほか 55 都市）、道路用砕石類（深浦町ほか 19 都市）、アスファルト混合物（鹿児島市ほか 80 都市）、パーティクルボード（全国）、硬質ポリ塩化ビニル管（全国）、硬質ポリ塩化ビニル管（全国）、鉄スクラップ（青森市ほか 38 都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか 8 都市）
・ 価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（水戸市ほか 16 都市）、鋼板（岐阜市ほか 26 都市）、一般建築用木材（全国）、燃料油（札幌市ほか 29 都市）、鉄スクラップ（鳥取市ほか 17 都市）、非鉄スクラップ（名古屋市ほか 2 都市）
2. 比較資料
・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	レディーミクストコンクリートの白石地区(東北)の価格上伸理由に「台風災害の復旧関連工事需要がある」との説明があった。この台風とは 2019 年の台風のことか。またその需要はしばらく続くのか。	白石地区(東北)の台風災害は令和元年(2019)の台風で、この復旧関連工事の需要は今後しばらく続く見通しである。
質問 2	レディーミクストコンクリートの豊田地区の価格上伸理由に「バイパス工事の需要がある」との説明があった。近隣地区の値動きはどうか。	今年の夏以降、周辺の豊橋地区で 2,000 円、岡崎地区で 3,000 円値上がりしている。
質問 3	レディーミクストコンクリートの山口地区で「公共工事が減少しているが価格上伸」との説明があった。一方で近隣の広島地区では原材料のセメント価格は上伸しているが、製品価格は変わらずで、先行きも横ばいの見通しとしている。近隣地区で動きが異なるが、どのような状況なのか。	原材料のセメント価格が上伸したことを背景に製品価格が上伸傾向にあるのは、全国的な傾向であり山口地区も広島地区も同様である。しかし地区ごとに競争環境や需給状況が異なっているため、価格交渉の進捗に差が生じている。
質問 4	「製造及び輸送コストの増加」や「製造コストの増加」とコメントに差異が見られる。これは調査結果を反映したものか。また「輸送コストの増加」には、ドライバー確保等の労務コストの影響はあるのか。	コメントは調査で得られた価格変動要因の主たるものを記載している。また、輸送コストには運転手確保に要する人件費上昇分も含まれる。
質問 5	説明資料に「先行き横ばいの見込み」という意味の記載が増えているように見える。値動きが少し落ち着いたとの理解でよいか。年末・年度末くらいまでこの傾向が続くとみているのか。	ウクライナ情勢による資源価格高騰を背景に鋼材・燃料などの各種製品が急騰した時期と比べて、ここ最近は価格の上伸傾向がやや緩やかになってきている。背景としては値上げが浸透し、年末・年度末ぐらいまで値上げの予定がない資材等が増加してきており「先行き横ばいの見込み」が増えている。年内はこうした状況が続くとみられる。

質問 6	大阪地区と九州地区の一部でコンクリート用骨材と道路用砕石類が値上りしているが、この値上がりの要因は何か。一方、類似資材の再生砕石の主要 10 都市は横ばいが続いている。この違いは何か。	コンクリート用骨材と道路用砕石類の値上がり要因は、輸送コストの増加が主たる要因で全国的なものである。一方、再生砕石は解体材を有料で受入れ、それを再生して販売しており、収入機会が複数ある点が自然採取の骨材や砕石と異なる。このため、解体材の発生頻度が高く受入れ需要が多い都市部では、製品在庫が溜まりやすく販売価格が上伸しにくい傾向にある。結果として主要 10 都市の再生砕石は横ばいが続いている。
質問 7	産業用火薬類の値上がり理由に「コスト増を背景とする値上がり」との言及があるが、産業用火薬類の主なコストは何か。	産業用火薬類は原材料コストのウエイトが大きい。主原料は硝酸アンモニウムでありその原料は天然ガスである。天然ガス高騰を背景に主原料の硝酸アンモニウム価格が上伸したため値上がりした。
質問 8	非鉄スクラップで「銅・アルミが上昇、亜鉛は下落」とある。これは産出国の違いなのか。また主な産出国はどこか。	国際相場の動きが「銅・アルミが上昇、亜鉛は下落」となっており、市中の集荷業者も国際相場に合わせて販売価格を変動させている。なお、産出国は品目により様々であるが主たるは中国である。相場に明確な方向感がなく小幅な値動きのなかで銅・アルミと亜鉛が上下異なる動きとなった。
質問 9	東京地区のレディーミクストコンクリート価格が上伸したが、直近で「なかなか浸透が難しいのではないか」というコメントがあった。このタイミングで上がった理由は何か。	東京地区のレディーミクストコンクリートは、協組が 6 月からの値上げを打ち出したため 5 月までに駆け込み契約が発生した。その反動で 6 月以降は閑散とした商状が続いていたが、ここにきて駆け込み契約したものの出荷がなかった物件の再契約や駆け込みに間に合わなかった物件、また 6 月以降に発生した物件等の交渉が活発化したことで値上げが浸透した。
質問 10	レディーミクストコンクリートの高松地区の市況に「協組は 10 月に値上げを表明し、出荷量は前年同期比 21%の増加となっている」と記載がある。値上げが行われ需要も堅調な状況で、先行きの見込みを横ばいとしている理由は何か。	高松地区は 10 月に値上げを打ち出しており本格交渉はこれからとなる。また値上げ前の駆け込み契約が発生し、その後 2～3 か月は交渉物件が少なくなり横ばいとなる傾向がレディーミクストコンクリートではよくある。その状況のため横ばいとしている。

質問 11	<p>コンクリート型枠用合板が2カ月連続で横ばいとなっている。コンクリートの需要が増えているなかで型枠需要も増加していると思われるが、どのような状況なのか。</p>	<p>コンクリート型枠用合板が横ばいの理由は、昨年度より19カ月連続で上伸した価格が一時的に踊り場となっているからである。連続で値上がりしている最中は、需給ひっ迫の中、工事業者は調達優先で値上げを受け入れていたが、この2カ月間は手持ち物件の材料手配は概ね見通しがつく状況となり、値上がりが止まっている。ただし荷余り感はみられないので再び需給ひっ迫の状況に戻る可能性はある。</p>
質問 12	<p>衛生陶器セットやトイレルーム用付属設備等の衛生関連資材のコメントに「メーカーの値上げが浸透し上伸」とあるが「メーカーの値上げが浸透した」とは、どのような状況か。</p>	<p>大手メーカーが2022年1月から値上げを打ち出してアナウンスを続けるものの、なかなか受け入れられない状況が続いていた。しかし流通業者が10月に入って値上げして契約していることを確認した。</p>
質問 13	<p>セメントの主要10都市における価格推移グラフをみると2022年度に入ってから動きが激しい。過去に昨今と同様に激しい値動きをした時期はあるか。</p>	<p>過去、昨今のような大幅変動した時期はない。比較的大きめの変動といえば2008年頃に石炭価格の値上がりを受け、セメントも1,000円ぐらいの値幅で上伸したことがあった。</p>
質問 14	<p>レディーミクストコンクリート業界は協組が存在するため、いわゆる物価高倒産は少ないのか、また事業継承の動きもあるのか。</p>	<p>出荷量が年々減少している状況から協組は、需要と供給の適性を図るためにプラントの集約化を働きかけている。このためプラント閉鎖や一部で廃業も行われている。また、事業継承は適宜実施されている状況にある。</p>
審議結果	<p>「建設物価」11月号、「Web 建設物価」11月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上